

学校教育目標	今年度の重点目標
1 進取の気性に富み、豊かな心と健やかな身体を持った人間を育成する。 2 真理を深く追求し、豊かな創造力と力強い実践力を持った人間を育成する。 3 国際的な視野を持ち、地域の産業や文化を理解するとともに、その将来を担う人間を育成する。	① ICTの活用と、主体的・対話的で深い学びの推進により、思考力・判断力・表現力の育成を図る。 ② 実社会との関わりの中から課題を見出し、教科横断的・協働的に行う探究活動を通じて、汎用的な学力を伸ばす。 ③ 地域の課題と国際的な課題を関連付けて考察し、幅広い視野の育成を図る。 ④ クラブや学校行事などの充実を図り、より良い人間関係を構築し、自主的・実践的な態度を育てる。 ⑤ 多様な他者を受け入れ、互いを尊重する豊かな心を育み、いじめのない安心安全な学校づくりを目指す。

① ICTの活用と、主体的・対話的で深い学びの推進により、思考力・判断力・表現力の育成を図る。		達成状況と達成度 100%:A 80%:B 50%:C 30%:D 20%未満:E		
具体的目標	評価項目	評価項目達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
【進路】 ・ICTを用いて進路情報を随時提供するとともに、生徒や保護者の意見をリアルタイムで聞くという双方向活用を推進する。 ・各調査の集計や、学力分析に役立てる。 ・ネット出願やオンライン面接にあたって、不自由がないように、ハード・ソフトともに充実させる。	【進路】 ・利用内容や頻度等に関して、十分に活用されたか。	・メール配信及びClass Room を用いてこまめな配信ができた。 ・進路希望調査に利用。 ・模試分析、共通テスト分析および出願指導に利用。 ・昨年並みの利用数。ハード・ソフトともにそろってきている。	A B A	・発信者の意欲に頼っているところがあるが、更に充実させていきたい。 ・HR等で一斉に回答させるなどの工夫が必要。 ・出願には必須。 ・係も生徒も慣れてきている。
【教務】 ・校内の授業見学を通し、授業におけるICTの活用方法を参考に各教職員の授業に活かす。	【教務】 ・校内授業見学週間を設定し、各教職員の授業見学の状況を調査する。	・今年度は1週間しか見学週間を設定できなかった。のべ49名(45名中)の職員が授業見学をした。	A	次年度は複数回の見学期間を設定したい。
【数学】 ・ICT機器を積極的に活用する。	【数学】 ・ICT活用の方法の幅は広がっているか。ICT活用の効果はどんな所に出ているか。	指導者用デジタル教科書の利用が進んだ。 生徒が授業内で思考を補助するツールとしてタブレットを活用できた。	A	ICT活用で、生徒が思考力の他、どのような力が高まっているのか検証が必要である。さらに研究を重ね、必要な検証をしていきたい。 機材の移動等を工夫する
【理科】 ・ICT機器の活用により映像を用いることで、より効果的・効率的な説明を行い、生徒一人一人に思考・判断・表現の機会を与える。	【理科】 ・ICTを活用で、効果的・効率的な授業展開ができたか。 ・ICTを活用することで、生徒により多くの思考・判断・表現の機会を与えることができたか。	・有効な活用ができた。 ・ビジュアル的な情報を与えることで、理解を促進できた。	A A	
【社会】 ・どのような場面でICTを活用することが効果的であるかを検証する。	【社会】 ・どのような場面でICTを活用することが効果的であるかを検証する。	・特に若手教諭の活躍により、ICTの活用が進んできている。	A	更に活用できるように努めたい。
【図書館】 ・ICTを用いて図書情報を随時提供する。 ・ICTを活用する授業の場を提供する。	【図書館】 ・ICTを用いて、的確に魅力的で有効な図書情報を提供することができたか。	多くの授業でタブレットが活用され、かつ情報センターとして機能し、有効な図書情報を提供できた。	A	公共図書館のデジタル化への対応、研究。
【1学年】 ・生徒の学校生活や学習活動においてICTを活用して生徒の実態を把握し、高校生活の目標の設定やその達成に向けての支援を行う。	【1学年】 ・生徒への支援、指導に有効活用できたか。	ICT活用 生活記録・朝ドリル・アセス・アンケート等のデータ収集。ClassroomでonlineHRや授業、課題の配布回収。 生徒とのつながりの1チャンネルとしての位置づけを確立。指導に反映できた。 火曜日7時限「総合的な探究の時間」を含めて十分に活用できた。	A	危機の不具合が突発的に起きるのでその対応が課題
【2学年】 ・生徒の学習活動を中心とした、学校生活の効率化を図るため、情報機器を効果的に活用する。	【2学年】 ・ホームルーム等での生徒への支援・指導に活用できたか。	制作説明では動画やパワポでの説明を導入したり、デジタルに対応した授業も行えたことで意欲関心の向上が図ることができた。	A	生徒への支援が更に高まるようにしたい。
【美術】 ・ICT機器を活用し、授業説明・調べ学習・鑑賞にICTを用いて説明し生徒の制作への関心や技能の向上を図る。	【美術】 ・ICT機器利用して生徒は課題理解ができていないか、また制作への意欲関心につながったか、技能の向上につながったか。	動画、静止画を効果的に使用したことで、概ね達成することができた。	A	タブレット導入での授業展開も含め、タブレットを活用した授業内容をさらに考えていきたい。
【書道】 ・ICT機器を活用し授業解説を行うことで、生徒の技術向上を図る。 ・生徒同士でICT機器を使用させることで、技術の習熟、定着を目指す。	【書道】 ・ICT機器を適切に使えたか、また生徒の技術向上はしているか。	言語活用においてICT機器を適切に利用し、また、それを使って生徒がプレゼンテーションを実施した。	B	今年度、一人一台タブレットを持つようになったこともあり、今後の活用の幅を広げたい。
【英語】 ・生徒の興味・関心を高めるためにICT機器を効果的に取り入れ、言語活動の充実化を図る。	【英語】 ・ICT機器を効果的に取り入れ、言語活動を充実させたか。	今年度のPTA予算で電子黒板リース料等が承認された。今後は年度毎に承認を得る必要はあるが、予算協力いただく道筋をつけることができた。	B	withコロナの状況下、地区PTAやPTA研修、学校行事への協力のあり方など、活動全般にわたる見直しが必要。更に活用できるように努めたい。
【渉外】 ・ICT機器の拡充と維持を継続的に行う。	【渉外】 ・同窓会とPTAの予算協力で整備できた県費外のICT機器を、次年度以降も維持できる予算などを確保できたか。	鑑賞の授業で、演奏風景などの動画を教科書で提示されている内容の理解を深めるために補助的に活用した。 音楽ワークノートの取り組みにおいて、生徒が自ら調べる機会を設けることができたが、実技や発表などの本来意図していた場面では活用することができなかった。	B B	パワーポイントなどのプレゼンテーションソフトを使用したい 授業計画の中で、どの場面で活用するかが明確ではなかったので、しっかり計画を立てる。
【国語】 ・ICT機器を積極的に活用することで、言語活動を充実させる。	【国語】 ・ICT機器を積極的に活用し、言語活動を充実させることができたか。	教員がほとんどの授業で活用した。	A	生徒のタブレット活用を場を多くしたい。
【音楽】 ・授業での補助教材としてICT機器を活用する。 ・生徒が自ら調べて学習参加する環境を整える。	【音楽】 ・動画やスライドなど、教科書の内容をさらに掘り下げて提示することができたか。 ・生徒が調査し、実技や発表に生かす場面を設定することができたか。	在校生および教職員へGoogleアカウントを割り振り、先生方へClassroomを利用してもらえるように準備した。	B	1人1端末末機の配布など、なかなか進まない部分があったので、準備の効率化を図りたい。
【家庭】 ・講義や実習の説明でICTを活用する。	【家庭】 ・動画、スライド等を使うことで、視覚的に効果的な授業ができたか。			
【システム管理】 ・全生徒にGoogleアカウントを割り振り、授業等にClassroomが使用できる環境を整える。	【システム管理】 ・授業等でClassroomを使用して学習支援ができたか。			

② 実社会との関わりの中から課題を見出し、教科横断的・協働的に行う探究活動を通じて、汎用的な学力を伸ばす。		達成状況と達成度		
具体的目標	評価項目	評価項目達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
【学習指導】 ・総合的探究の時間の「課題研究」を通し、生徒が実社会における課題に気づき、その問題の本質を考え、解決方法の検討・検証に取り組む機会を与え、その活動を支援する。	【学習指導】 ・社会との関わりの中で、生徒が自分の周囲にある課題に気づけるような指導ができたか。	それぞれの課題を見つけ、検証等の方法を考えさせる指導ができた。	A	発表のしかたをもう少し違ったものにできるか検討したい。
【1学年】 ・ミニ探究の時間や探究活動講演会を通して、現状の理解と課題の発見、解決への手がかりを考える機会を設定する。	【1学年】 ・課題に対して興味をもち、その解決に向けて自分なりの考えをもつための支援ができたか。	ミニ探求を設置。担当者の指示により5テーマの探究活動を経験することにより、実社会との関わりの中から課題の見つけ方、その解決方法を体験させられた。	A	1テーマ5コマで運用。+2コマ程度が適当という意見もあり
【2学年】 ・個別に設定した課題に沿って調査・考察したものを、多くの人に伝わりやすい形を考え発表する。	【2学年】 ・独自の評価に基づいて評価を行うことができたか。 ・評価の方法は生徒の力を正しく評価できるものであったか。	双方向的なやりとりを通して考察は深まり、しっかりとまとめることができた。生徒の力をより引き出す形での評価ができた。	A	課題解決への道程となり得るものでありたい。

③ 地域の課題と国際的な課題を関連付けて考察し、幅広い視野の育成を図る。				
具体的目標	評価項目	評価項目達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
【学習指導】 ・総合的探究の時間の「課題研究」を通じ、生徒が実社会における課題に気づき、その問題の本質を考え、解決方法の検討、検証に取り組む機会を与え、その活動を支援する。	【学習指導】 ・生徒が主体的に自分と地域社会・国際社会の関わりに関心を持ち、問題点を見つける機会を与えられたか。 ・課題の解決策や活動の報告などの取り組みを支援できたか。	それぞれの課題を見つけ、検証等の方法を考えさせる指導ができた。 実施可能な範囲で活動が行えた。	A	実社会の様々な事柄を、自分のものとして捉える姿勢を育てたい。
【1学年】 ・アジアフ運動、全校登山・スキースノボ教室等の本校ならではの教育活動を通じ、地域社会から国際社会にむけて現状の理解と課題の発見、解決への手がかりを考える機会を設定する。	【1学年】 ・地域にある課題や国際的な課題と自分の生活との関連に気づき、自分なりにとるべき行動を考えるための支援ができたか。	アジアフ運動への参加経験や、その活動について学習することにより、国際的視野に立った課題意識を育めた。	A	資料DVDの劣化に困惑。活動前に学習がより効果的か。
【2学年】 ・アジアフ運動等への参加を通して、地域の課題や国際的な課題について自分たちのできることを考えさせる。	【2学年】 ・生徒が安心して意欲的に取り組めるような支援が行えたか。	市内へ実際に出かけていっての活動を適切に指導し、来年度につながるような支援をすることができた。	A	アジアフ運動を本校生が行う意義を深く自覚できるような学習を重ねたい。
【3学年】 ・アジアフ運動への積極的な参加を通して、地域の課題や国際的な課題について自分たちのできることを考えさせる。	【3学年】 ・生徒が1・2年生をリードしながら安心して意欲的に取り組めるような支援が行えたか。	3年生が市内での活動を経験している唯一の学年であることを活かして自信を持って1、2年生をリードできるよう指導できた。	A	アジアフ運動は誇りを持って外部にも語ることでできる活動であり、講演会以外にも学習して理解を深める必要がある。
【英語】 ・英語学習を通じて、地域および国際的な課題の理解に必要な知識と技能を身につけさせる。	【英語】 ・地域および国際的な課題の理解につながるような授業を展開できたか。	教科書の題材を通して地域および国際的な課題を理解させることができた。	A	課題を理解したうえで、さらにそのことについて解決策を考える機会をつくっていききたい。
【商業・情報】 ・地域などの様々な課題を、生徒が主体的に仲間と協力しながら解決し、その発想を地域に活かすことで、社会への参画意識を高める。	【商業・情報】 ・生徒が主体的に課題に取り組み、解決策を発想することができたか。	商業科では、「販促会議 企画コンペティション」「全国高等学校ビジネスアイデア甲子園」「長野プロデュースデザインコンテスト」に応募するなど、課題に取り組み、解決策等を考えさせた。	B	他の科目においても、問題解決能力を身につけさせる取り組みを考えたい。

④ クラブや学校行事などの充実を図り、より良い人間関係を構築し、自主的・実践的な態度を育てる。				
具体的目標	評価項目	評価項目達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
【生徒会】 ・クラブ・委員会・文化祭係活動を通じて、他者への理解を深め、主体的に活動できる生徒を育てる	【生徒会】 ・生徒会諸活動を運営することによって課題を発見し、その解決に向けて共同的な取り組みができたか。	コロナウイルス感染対策を行い綿密に話し合い諸行事を開催できた。	A	コロナ禍でも特別活動の時間を確保していききたい。
【図書館】 ・読書週間などの行事を通して、知識・教養を深め、人間形成、よりよい人間関係の構築を図る。	【図書館】 ・各図書館行事の計画・運営を生徒自身が主体的にできるように、助言、支援することができたか。	・読書週間、旬間、また文化祭期間などを使い、多くの文化的な活動を行うことができた。	A	生徒の意欲を計画的に支援していくこと。
【1学年】 ・学校行事が安全にまた効果的に実践され、生徒が主体的にまた共同的に活動できる機会とする。	【1学年】 ・多くの職員によりあらゆる角度から安全性や効果を検討した上で、生徒の発達の間とすることができたか。	コロナ禍において教育活動が多くの制限や配慮と必要とする中で、学校が感染拡大の場となることなく、教育活動が実践することができた。また、許される範囲内で最大限の特別活動、課外活動が実践され、生徒の成長の場となった。	A	学年レクや研修登山などに参加する生徒の様子に改めて日常の学習活動を補う意義を感じ取れた。可能な限り実現の工夫をしたい。
【2学年】 ・学校行事に積極的に参加しながら、他者と主体的、協働的に学ぶ姿勢を育む。	【2学年】 ・生徒同士がコミュニケーションを図りながら自主的に決定し、活動できるような場面設定と支援ができたか。	コロナ禍で様々な制限がある中でも、クラス展示やクラブ発表などに向けて意欲的・自主的に活動できるように指導した。	A	自由な活動がかなわない中であつても、生徒同士の関わりを通して活動を推進できるようにしたい。
【3学年】 ・学校行事に積極的に参加しながら、他者と主体的、協働的に学ぶ姿勢を育む。	【3学年】 ・生徒同士がコミュニケーションを図りながら自主的に決定し活動できるような場面設定と支援ができたか。	岳嶺祭などの行事でクラス内の委員やリーダーが中心になってクラス全体を動かし自主的に作り上げていくよう指導した。	A	クラス内だけでなく学年のことも生徒たちが他と関わりながら自主的に決定していく活動を増やしていきたい。
【保健】 ・自他を大切に、主体的に安心・安全・健康的な生活を送ることが出来る生徒を育む。	【保健】 ・学校保健安全年間計画に沿って毎月生徒の気づきに適切な助言、支援が出来たか。	生徒自身が気がついた健康課題に対して、将来役立つ保健知識を伝えながら支援ができた。	A	感染状況を見ながら、講演会を企画し、生徒が正しい健康情報を学ぶ機会を検討した。
【清掃】 ・生徒ひとりひとりが環境への理解を深め、公共物を大切に、日々の清掃を積極的に行う心育てる。	【清掃】 ・ごみの分別がしっかりとできているか。清掃時間中に生徒同士の協力を支援できたか。	燃えるゴミにペットボトルが混じっているなどした場合、分別するように指導するなどした。最初から分別できるように呼びかけなどする必要があつたかもしれない。	B	ゴミの分別がさらによくできるよう、また、清掃時間中に生徒同士がさらに強力できるように指導していききたい。

⑤ 多様な他者を受け入れ、互いを尊重する豊かな心を育み、いじめのない安心安全な学校づくりを目指す。				
具体的目標	評価項目	評価項目達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
【1学年】 ・情報端末の活用推進が求められる状況下において、その使い方や情報の扱い等、適切に活用する力と心を育てる。	【1学年】 ・思いやりの上にしたった行動を評価できたか。その育成に向かう指導ができたか。 ・情報端末の活用が正しく行えるよう随時気を配れたか。	情報端末の利用方法に関するマナー・モラルをこたことに確認することにより、生徒が大きな不安や問題に巻き込まれる前に迅速な対応をすることができた。担任にとらわれず多くの関係職員と生徒の関係を保つ工夫により問題の深刻化を防いだ。	A	入学直後の情報モラル講習はスマートフォンを持ち始めの生徒が多い中、歯止めをかける意味でも有効であった。
【2学年】 ・他者への思いやりをもって他者と関わったり情報を発信したりできる心の豊かさを育成する。	【2学年】 ・他者への思いやりをもって日頃から生徒同士が認め合い、支え合う場面づくりと個々の生徒への目配りができたか。	平日頃生徒の動向を注意深く見守った。10月下旬には「デートDV講演会」を実施して身近な事例を示すことにより当事者意識を深めることができた。	A	「デートDV講演会」では年齢の近い大学生の話が生徒には響くものがあったようだ。今後も同様の機会を設けたい。
【3学年】 ・思いやりをもって他者と関わったり情報を発信したりできる心の豊かさを育成する。	【3学年】 ・日頃から生徒同士が認め合い支え合う場面づくりと個々の生徒への目配りができたか。	普段からアンテナを高くして困っている生徒の把握に努め、必要に応じて学年集会を持った。4月には障がい理解促進講演会を行った。	A	障がい理解促進講演会は障害のある方の話を聞いたり対話を通して理解を深めたりする貴重な機会であり、今後も検討する価値がある。
【英語】 ・ペアやグループでの活動において他者と協働しながら主体的にコミュニケーションをとる態度を育てる。	【英語科】 ・他者と協働しながら主体的にコミュニケーションをとる態度を育てられたか。	方法に限られることもあつたが、工夫しながらコミュニケーションをとる態度を育てることができた。	A	今後も感染症対策に気をつけながら、協働的活動を取り入れる。
【いじめ防止】 ・いじめの無い、安心安全な学校生活を過ごせるよう、相談窓口の周知を行い相談しやすい環境づくりを進めるとともに、情報収集と、関係部署との連携した対応を行う。	【いじめ防止】 ・相談窓口の周知ができたか。迅速で適切な対応ができたか。	長期休業前後のタイミングで校内外の相談窓口を周知し、担任からの声掛けを行った。生徒、保護者からの訴えに対して組織的な対応を行った。	A	引き続き、校内外の連携を大切にして生徒の支援を行っていく。生徒アンケートの活用を充実させる。
【保健】 ・開放的な保健室経営をする。	【保健】 ・心身の健康課題の早期発見、早期対応、寄り添いができたか。	コロナの影響を感じさせる生徒の心身の健康課題に寄り添い、校内で連携し、情報共有をスムーズに行うことができた。	A	今後も積極的に情報共有を行うことで、生徒、保護者、職員にとって開放的な保健室経営を目指す。
【教育サポート】 ・不登校や特別支援への理解を深めるために職員研修を実施する。	【教育サポート】 ・不登校や特別支援への理解が深まったか。	生徒理解に係る職員研修を通して、支援の理解を深めることができた。必要に応じてSCと連携した指導により手厚い支援ができた。	A	生徒支援室に職員が常駐することにより相談しやすい環境ができていた。さらなる充実を目指す。
【生徒指導】 ・他の係と連携して、生徒の現状把握に努めるとともに、生徒一人ひとりが安心して高校生活に取り組めるような環境作りの推進を行う。	【生徒指導】 ・学校生活アンケートや学級担任による個人面談を実施して、生徒の現状を把握することができたか。	・年2回のアンケート調査と担任・学年による3回の面談週間を実施し、生徒の現状把握を行うことができた。	A	コロナにより、通常の指導が困難な部分もあるが、引き続き生徒の現状把握に努めていく。
【体育】 ・実技を通して仲間を思いやる気持ちをもつ。	【体育】 ・お互いに声を掛け合いながらチーム分けなど出来ていたか。 ・困ったことがあつた時、寄り添えることが出来ていたか。	消毒や密をさけるなどの感染対策を行いながら、運動の合理的実践を通して生涯にわたって運動に親しむ能力を身に付けることができた。	A	登山等に備えることができるように、体力の向上を目指した年間計画の作成に留意する。

⑥ その他、上記にあてはまらないもの				
具体的目標	評価項目	評価項目達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
【コンプライアンス委員会】 ・非遵行為防止に対する意識を高めるための職員研修を行う。非遵行為防止・対応マニュアルの確認を含めた活用を行う。	【コンプライアンス委員会】 ・職員研修の実施ができたか。非遵行為防止・対応マニュアルの確認、活用ができたか。	職員会のたびに非遵行為防止について、職員の意識の向上を図る話を校長より行った。事例検討による職員研修により、職員一人一人が自分のこととしてとらえることができた。	A	風通しの良い職場環境を心掛け、非遵行為防止への意識を高める。
【ビジョン委員会】 ・普通科、学究科のビジョンを明確にし、魅力ある学校作りを推進する。	【ビジョン委員会】 ・普通科、学究科のビジョンを明確にし、職員の共通認識とすることができたか。	学究科運営委員会の在り方、メンバーについて話し合うことしかできなかった。	B	定期的に委員会を開き、職員研修会など開きビジョンを明確にしていききたい。